

青年部 かわら版

山形県建設業協会鶴岡支部

青年部広報誌

第43号

令和7年8月15日発行

今こそ考える、青年部の使命と建設業の価値



山形県建設業協会
鶴岡支部青年部

部長
佐藤 義将

令和7年度を迎えるにあたり、皆様におかれましては、日々ご健勝にてご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。また、平素より当青年部の活動にたいしまして、関係各位の皆様からは多大なるご理解とご協力を賜っておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

本年度、鶴岡支部青年部第20代目の部長を拝命致しました佐藤義将でございます。まだまだ未熟者ではございますが、伝統ある青年部の部長としてその責務の重さを深く受け止め、会員の皆さまと力を合わせながら、誠心誠意取り組んでまいります。1年間、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

近年は気候変動に起因する自然災害の激甚化・頻発化が社会課題となる中、私たち建設業の果たすべき役割は、ますます大きなものとなっております。有事の際には「地域の守り手」として、迅速な

対応が求められ、地域の安全・安心を守る最前線に立っています。また、平時においても、国民生活や社会経済活動を支える重要な役割を担っております。そんな中、現場従事者の高齢化や若年層の減少という深刻な課題に直面しながら、担

い手の確保に向けた働き方改革や処遇の改善、適切な価格転嫁などさまざまな取り組みが求められる中、多くの企業が苦慮しているのが現状であります。山形県全体でも人口減少に歯止めが効かず、すでに100万人を割っており、地域の担い手の確保は喫緊の課題でもあります。そんな中、私たちの業界も時代に即した対応が求められており、新技術の活用・推進による省力化・省人化と言った建設DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進した生産性向上が急務となっております。効率的かつ安全な現場づくりを目指すが、業界全体の未来を左右すると言つても過言ではありません。また、インフラ整備においては、老朽化した施設の更新や維持管理、さらには新たな公共投資の推進は、地域社会の持続可能性に直結します。私たち建設業が果たす役割は「守り・育て・次代へつなぐ」ことへと広がっており、その重要性は今後ますます高まって行くのではないかと考えております。

このような背景を踏まえ、青年部としても微力ではありますが業界の魅力発信に力を入れていく所存です。その活動の中での重点事業でもある高校生の現場見学会や、高校生就業促進事業の意見交換会などにおいて、私達建設業の役割や重要性、仕事へのやりがい・魅力にもつながる今の建設業のDX技術を取り入れながら仕事の楽しさを伝えていければと思っております。また、新卒者の進路においては、地元志向が強まっている傾向があることから、地域に根差した企業として、一人でも多くの若者が地元建設業に関心を持ち、将来の選択肢としてもらえるよう、地道ながらも効果的な取り組みを続けてまいります。

最後になりますが、建設業協会の親会をはじめ、ご支援・ご協力を頂いております関係機関の皆様に対し御礼を申し上げますと共に、諸先輩方がこれまで築いてこられた歴史や伝統を引き継ぎ、地域に根差した事業を推進して行けるよう精一杯努めて参りたいと思っております。皆様には引き続きのご指導・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令和6年度

高校生建設業就業促進 事業報告



企画政策委員会
副委員長 佐藤 勝隆

平成27年度にスタートした高校生就業促進事業も令和6年度で10年となりました。コロナウイルスの影響で開催できなかった年もありましたが山形県立鶴岡工業高校2年生の生徒には大変好評の事業です。

事業内容は、光波を使用した測量実習体験・現場見学・若手就業者からのメッセージ・高校生と若手技術者との意見交換会を行いました。参加者は、生徒35名に対して協会から1名、青年部20名、県職員の方が3名と総勢24名による手厚い対応ができました。

測量実習と高校生と若手技術者との意見交換会は、生徒を4人グループに分けて全員が体験や発言ができる場を用意しました。少人数のグループに分けたため測量実習では、1人ずつ光波の据付から巻き尺での実測まで作業を行い地図作成や各種測量の基準となる基準測量を体験してもらうことができました。意見交換会は、グループ毎に興味のあるテーマを選んでもらいました。どのグループの生徒からたくさん質問が出て盛り上がっている様子が見られました。

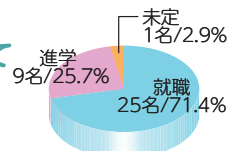
若手就業者からのメッセージでは、県職員1名、青年部2名の方からお話を伺いました。建設会社就職してもらいたい気持ちはありますが、県職員の方からもお話を聞けたことで建設会社就職しなくても専門職の公務員として建設業に携わる選択肢があることを高校生に提示できた

令和6年度 高校生建設業就業促進事業

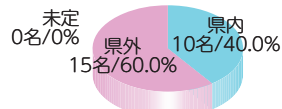
アンケート対象生徒：鶴岡工業高等学校 建築科 2年生 35名

1 あなたの進路について

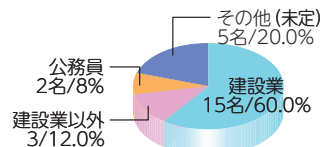
就職ですか進学ですか
(回答数：35名)



就職は県内・県外
どちらを希望しますか
(回答数：25名)

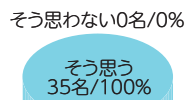


どんな職業を
希望しますか
(回答数：25名)

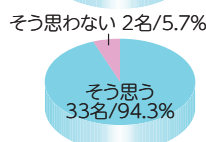


2 建設業についてどんなイメージを持っていますか

建設業は、地域社会の発展に貢献していると思いますか (回答数：35)

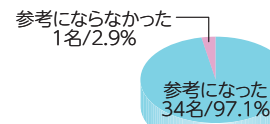


建設業は、自分の能力を活かすことのできる魅力的な仕事だと思いますか (回答数：35名)

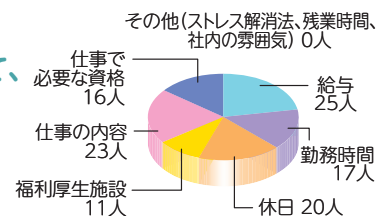


3 高校生意見交換会について

(回答数：35名)



4 建設会社に関する情報として、どんなことを知りたいと思っていますか



5 高校生意見交換会を終えての感想・要望

感想

- ・県内、県外就職についてのメリット・デメリットを聞けてよかった
- ・実際の企業の方に直接話を聞くことができてよかった
- ・意見交換をして建設業のイメージが変わった
- ・普段聞けないことを聞けてよかった
- ・給料面に関しまして聞けてよかった
- ・企業の方と楽しく話ができてよかった
- ・普段見ることのできない現場の見学ができてよかった

と思います。また、鶴岡建設・マルゴ・佐藤組特定建設工事共同企業体の「鶴岡市立荘内看護専門学校移転新築工事」の現場見学会でも鉄筋、型枠工事と電気設備、機械設備の工事をしておりそれぞれの専門業者が作業をしている所を見てもらえたので1棟の建物が完成するまでに資材会社や機械設備等多くの産業が関わっていることも伝えることができました。

日本は、女性・シニアの就業者が増加しているため就業者全体では増加していますが、建設や運輸、情報サービス業等では、人手不足が深刻になっています。また、都市部に人口が集中しているため地方の中小企業では人手不足が顕著となっております。建設業は、新しい街を造る都市開発だけでなくインフラ整備や自然災害への対応、国土保全維持等の責務も担っている重要な産業であることを高校生に伝えるために今後も事業を継続していく予定です。今回参加してくださった山形県立鶴岡工業高校の教職員、生徒の皆さんをはじめ県職員、建設業青年部の方々に

は、大変お世話になりました。ご協力いただき誠にありがとうございました。

**酒田鶴岡
青年部
建設
チャンネル**

山形県建設業協会
酒田支部青年部・
鶴岡支部青年部の
チャンネルです。



令和6年度

河川愛護活動 事業報告



地域貢献委員会

副委員長 佐藤 直

毎年、当青年部で行っている「山形県ふるさとの川 愛護活動支援事業」を今年度は、5月29日に行うことができました。

新型コロナウイルス感染症が出てからは、大山小学校3年生と一緒に活動



を行うことができませんでした。昨年より感染症も5類に移行となり、マスクを着けることを強制されることもなくなりました。

各自個人の判断で自由に活動を行うことができるようになりました。

当日は、小学生との合同での活動の前に青年部員27名にて大山川の高館橋より大山橋の左岸側の草刈りを行いました。

毎年この時期になると草木もどんどん大きくなってきて、大人の背丈ほどに高くなります。大変な作業ではありますが、みんなで河川を綺麗にしようという思いで、汗をかきながら行いました。

自分たちの作業のあとに小学生と一緒にを行うため、歩いても危なくないよう丁寧に気を付けながら行いました。

草刈り作業が終わると、小学生47名、先生3名に出席していただき、大変多い人数でゴミ拾い活動を行いました。

当日は、天気も曇りでしたので、すごしやすく活動できました。

青年部員が子供たちが危なくないか確認しながら、一緒にゴミ拾いや話したりと、楽しい光景を見ることができました。

子供たちの心にも川をきれいにしたいと思う気持ちが持つことでできればいいことだだと思いますし、子供たちも大変楽しそうに活動したので、大変有意義なものと感じました。

普段の仕事からケガなどないよう十分に気を付けているみなさんです。十分距離をおき、無事ケガもなく終わることができました。ふるさとの川の美化活動に積極的に取り組みたいと思いました。そして同時に青年部、地域の人たちのつながりも大切にしたいと思いました。

当事業にご協力いただきました青年部の皆さん、関係各所の方々ありがとうございました。



令和6年度

豪雨災害ボランティア活動

事業報告



地域貢献委員会

委員長 菅 健太

山形県建設業協会鶴岡支部青年部では、令和6年7月25日に恒例の『鶴岡公園ボランティア活動』を行う予定でしたが、この日は記録的な豪雨だったため中止となった経緯もあり、今年は豪雨災害で被災した地域を支援するため、令和6年8月21日に被害の大きかった酒田市八幡地域を中心に青年部で「山形県豪雨災害ボランティア活動」を行いました。

当日は、青年部18名で八幡地区周辺の4箇所に分かれての活動となりました。主に住宅に流入した土砂を人力により搬出する作業を午前・午後に渡って行ないました。

この日は、天気は良かったものの、気温が高く熱中症の恐れもありましたが、無事怪我もなく作業を終えることができました。



浸水・全半壊、農地冠水や道路損傷などの甚大な被害を目の当たりにして、改めて自然災害の恐ろしさについての認識を深めるとともに、我々建設業に携わる者として、これらに対する備え、地域で協力し合うことの必要性を感じて、機会になりました。

最後に、この事業の活動に際しまして、地域の皆様、関係各位様、部員の皆さん、たくさんのご協力を頂き、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

令和6年度

自然体験活動

事業報告



地域貢献委員会

小野寺 克将

令和6年9月4日、地域貢献活動の一環として「水土里ネットいなばポケットパーク自然体験活動」を実施しました。昨年度に続く開催となり、藤島小学校2年生の児童・先生方、因幡堰土地改良区の皆様と青年部員との合同で行いました。

当日は晴天に恵まれ、最高気温31℃と厳しい暑さの中での活動となりました。

が、学校からポケットパークまでの誘導・引率や、池での生き物採取の補助などに取り組みました。

子どもたちは猛暑の中、腰まで泥に入っている夢中になって魚やエビを捕まえていました。池には多くの種類の生き物



が生息しており、その中には絶滅危惧種とされる希少な生物や外来種も含まれていることを学びました。

こうした体験を通じて、地元の自然の豊かさや、生き物の多様性について関心を深める貴重な機会となり、児童は説明に真剣ながらも楽しげに耳を傾けていました。

今回の活動は子どもたちにとって自然や生き物への関心を育む貴重な体験であるとともに、私たちにとても環境保全の大切さを再認識する良い機会となりました。

準備段階からご協力いただいた因幡堰土地改良区の方々ははじめ、皆様のご協力のおかげで、事故や怪我もなく無事に活動を終えることができました。ご支援・ご協力を賜りました皆様に、心より感謝申し上げます。

令和6年度

高校生現場見学会 事業報告



企画政策委員会
委員長 齋藤 直樹

本事業は、将来の建設人材確保育成の一環で、日頃の授業や実習だけでは学ぶことが出来ない実際の工事現場を見学してもらい、建設業の魅力を伝え興味を持ってもらうことで建設業への就業促進を目的としています。

実施日 9月11日

参加者 山形県立鶴岡工業高等学校

建築科1年生 生徒22名

引率教員2名

山形県庄内総合支庁

建設総務課2名

鶴岡支部青年部23名

協会支部1名

見学現場

1 鶴岡市立荘内看護専門学校移転



現場見学会開催にあたり、例年と比

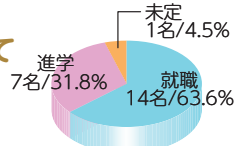
- 2 新築工事（鶴岡建設・マルゴ・佐藤組JV）
- 3 西目地区地すべり対策工事第4工区（株式会社鈴木工務店）
- 4 旧由良小学校校舎等解体工事（株式会社誠朋建設）
- 5 鶴岡市朝日庁舎・消防署朝日分署改築工事（菅原建設・伊藤組・十和建設JV）

令和6年度 高校生建設業現場見学会

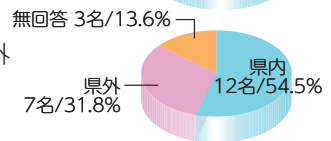
アンケート対象生徒：鶴岡工業高等学校 建築科 1年生 22名

1 あなたの進路について

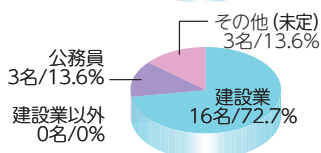
就職ですか進学ですか
(回答数：22名)



就職は県内・県外どちらを希望しますか
(回答数：22名)



どんな職業を希望しますか
(回答数：22名)



2 建設業についてどんなイメージを持っていますか

建設業は、地域社会の発展に貢献していると思いますか (回答数：22)

そう思わない 0名/0%

そう思う 22名/100%

建設業は、自分の能力を活かすことのできる魅力的な仕事だと思いますか (回答数：22名)

そう思わない 0名/0%

そう思う 22名/100%

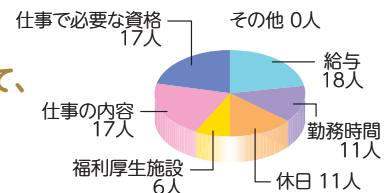
3 高校生意見交換会について

(回答数：22名)

参考にならなかった 0名/0%

参考になった 22名/100%

4 建設会社に関する情報として、どんなことを知りたいと思っていますか



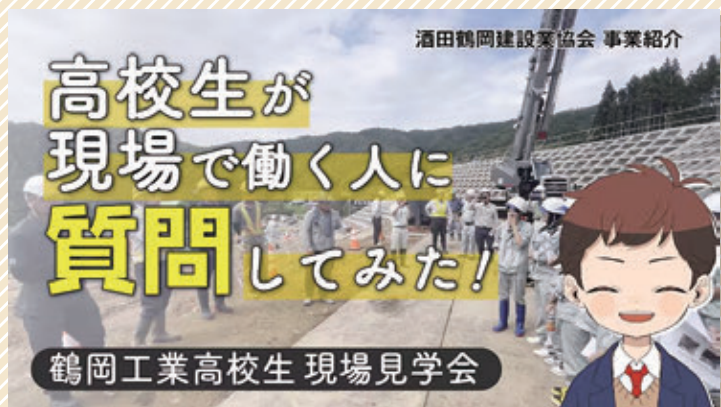
5 高校生意見交換会を終えての感想・要望感想

- ・実際の工事現場を見ることは貴重な経験であり、就職活動に大きく繋がる
- ・一つの建物ができるまでにたくさんの時間と材料、人員が携わっていることを実感
- ・現場見学会は建設について改めて学べ、更に興味を持つことができる
- ・事前にインターネットで調べたがよくわからず、実物を見ることで理解できた
- ・すべての建設工事が大変で、社会貢献に欠かせない仕事だと思った
- ・もともと建築に興味があったが、土木の現場を見て少し興味をもった
- ・見ることができない壁の中、RC造の仕組みを知ることができ知識が深まった
- ・暑い中での作業を協力して作業を進めて頑張りや努力を感じた

べ生徒数が非常に少ないことに驚きました。定員に対し約半数の生徒であることは、建設業界への就業減少の要因のひとつと考え、本事業の重要性を開催前から感じました。

現場見学は、現場担当者より工事概要や現在の作業内容などについて説明していただいた後に、予定していた見学順路に従って見学を行いました。施工途中の建物の様子や、職人が実際に働いている姿を見て、日頃の授業や実習では学べない実際の工事現場に興味津々な様子で、後の質疑応答では生徒より数多くの質問が出されました。今後この事業を通じて、建設業の未来を担う人材の育成に努め、より多くの生徒がこの業界に興味を抱き、将来従事されるよう事業継続していければと思います。

最後に、本事業の成功のために協力頂いた山形県立鶴岡工業高等学校建築科生徒・教職員の皆様、ご多忙中にもかかわらず安全に配慮しながら現場に受入れてくださった会員企業・現場担当者の皆様、建設業協会鶴岡支部の役員・部員の皆様感謝申し上げます。



山形県建設業協会
酒田支部青年部
鶴岡支部青年部の
チャンネルです。



令和6年度

研修視察事業報告



技術研修委員会
委員長 浅賀 大輝

令和6年度、建設業協会青年部の研修視察として大阪・京都へ行ってきました。

現場視察として令和7年4月より開催される大阪・関西万博、大和ハウス工業パビリオンである「いのちのあそび場クラゲ館」の施工中現場を訪問しました。(株)フジタ様を中心とした設計・施工であり特徴はクラゲのような大きな膜と創造の木と呼ばれる木材で形作られた大屋根、3次元トラス構造により組み上げられた内部は見事でありました。小さな部材が絡まりあうように組み合わさり一つの大木が立っているような光景は圧巻でした。DXを活用することで設計者の思いを形にすることができたとのことで、最先端の技術力を目の当たりにして刺激を受けました。ご協力いただきました(株)フジ

タ様、ありがとうございました。

また観光として伏見稲荷大社、嵐山の竹林、渡月橋、東映太秦映画村を巡ってきました。何れの場所も観光客で混みあっていました。京都の歴史ある街並みや風景、文化を肌で感じることができました。

建設業協会親会をはじめとする皆様方のご理解ご協力に対し心より感謝申し上げます。



令和6年度

会員勉強会事業報告



技術研修委員会
副委員長 安藤 将士

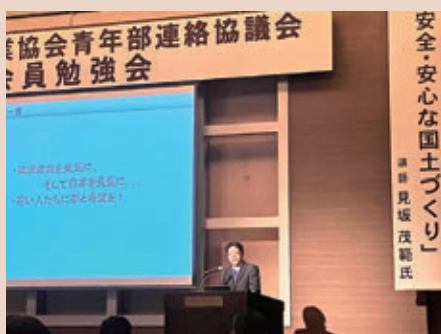
令和6年12月2日、ホテルメトロポリタン山形にて、山形県建設業協会青年部連絡協議会会員勉強会が行われ、当鶴岡支部からは9名が参加しました。

今回の会員勉強会の講師として近畿地方整備局前局長の見坂茂範氏をお迎えし、「安全・安心な国土づくり」と題して講演をいただきました。

見坂氏は建設省にて道路計画や防災技術管理など多くの実績とキャリアを形成し令和6年5月に国土交通省を退職されました。その中で氏は山形県内の道路整

備が他県に比べ遅々としており、道路整備の重要性や山形県建設業界の肝要性を説かれました。また日本国が迷走しているのは国としての長期計画を策定せず漫然と時を刻んできたからであり、今こそ長期ビジョンを構想すべきであると熱く語ってくださいました。

当会勉強会は普段は中々拝聴することのできない稀有な機会です。青年部会員一同この学びと経験を活かして参ります。



令和6年度

総務交流委員会

事業報告



総務交流委員会

委員長 佐藤 潤一

本年度の総務交流委員会は、定時総会並びに歓送迎会、水辺で乾杯、酒田支部との交流会、Webページの更新、臨時総会、新年会と予定していた事業を滞りなく行うことができました。定時総会においては予算及び事業内容について審議し、歓送迎会では4人の卒業部員と3名の新入部員を迎え、昨年より2社少ない29名での活動となりました。

酒田支部との交流会においては、今回は鶴岡地区での開催となり酒田鶴岡両支部から14名ずつ計28名と多数の出席を頂き情報交換などを行い有意義な会となりました。

また、臨時総会においては新年度の役員、各委員会の事業及び組織図の審議を行い、承認を得ることができました。その後の新年会では、青年部員相

互の親睦を図る良い機会となりました。最後になりますが、1年間委員会の事業が滞りなく活動を行なえたのも、青年部員はじめ活動にご理解ご協力いただいております皆様のおかげと心より感謝申し上げます。



令和6年度

卒業の言葉

青年部卒業の言葉



㈱鈴木工務店

阿部 和弥

平成23年の入部以来14年間、数多くの貴重な経験をさせていただきました。これまで多くの部長のもとで活動してきたことは、私にとって大変意味のある時間でした。それぞれの部長が示してくれた方針や熱意に触れるたび、自身の考え方や姿勢も自然と磨かれていったように思います。

青年部の活動を通じて、仕事とは異なる角度から地域や業界を見つめ直すきっかけを得られたこと、そして何より、同じ志を持つ仲間と出会えたことは、かけがえのない財産となりました。同じ目標に向かって力を合わせることで、本当の意味での「仲間」ができたと感じています。特に研修視察での学びはもちろんだ大きなものですが、その移動中や懇親の場で交わした何気ない会話、地元の美味しいものを囲みながらの交流が、今でも心に残っています。仲間との距離がぐっと縮まり、「また頑張ろう」と思える活力になりました。他にも建設業の魅力を伝え、将来を担う人材確保を目的とし行っている高校生現場見学会や就業促進事業は青年部にしかできない非常に意義深い活動だと思います。

今後は一OBとして、青年部の活動を陰ながら応援させていただくとともに、地域社会の一員として、引き続き建設業の発展と地域の発展に尽力していきたいと思っています。最後に、これまで支えてくださった皆様に心より感謝するとともに、鶴岡支部青年部の

益々の発展と部員皆様方のご活躍を祈念して卒業の言葉とさせていただきます。
長い間本当にありがとうございました。

青年部卒業にあたり



㈱王祇建設

斎藤 直樹

平成29年青年部に入部以来8年間、鶴岡支部青年部にお世話になりました。未だ卒業を迎える年齢にはなっておりませんが、40歳の節目を迎えて将来を見据え、家業を継ぐことを決め退職し青年部を卒業する運びとなりました。

私にとって青年部は「憩いの場」でした。青年部に入部していなければ今の自分がなかったと言っても過言ではありません。委員会事業・研修視察・ボランティア活動・役員会等どれも楽しい活動で大切な思い出であり、自信をスキルアップ・成長させてくれました。長年務めさせていただいた企画政策委員の活動において、高校生を対象とした就業促進事業はもちろんですが、小中高生に向けた活動も今後さらに力を入れていくものと思っています。地元建設業の担い手確保に向けた皆様のご活躍を期待しております。鶴岡を担っているトップの皆様と一緒に活動させていただいて本当に光栄でした。

最後になりますが、青年部という場を送り出してくださった王祇建設様、また、ご指導とご支援をいただきました皆様へ心より感謝申し上げます。大変お世話になりました。ありがとうございました。

卒業の言葉



榑安藤建設

板垣 敬一郎

令和元年に入部して以来、青年部にお世話になり6年間様々な方々と出会い交流させていただき、また、貴重な経験を積ませていただいたことを心から感謝申し上げます。

入部当初は活動をほぼ理解していません。入部したため、戸惑いや不安の中で活動に参加していたことを思い出します。しかし、活動に参加していく中で様々な先輩方に声をかけていただき、活動をおして楽しく交流し参加できました。

青年部の様々な活動をおして、通常業務では得る事の出来ない貴重な経験をさせて頂きました。河川愛護活動やボランティア活動では部員の皆様はもちろん、地域の高校生や小学生と一緒に体を動かし、楽しく活動できました。青年部の活動を行っていただければ交流する事がなかった方や、会話することがなかったかもしれない方と知り合えたことが私個人としても、とても貴重で大きな経験を積ませていただけたと思っています。

また、様々な活動をおしてこれからの社会を担う若い人達から建設業に少しでも持つてもらえる機会をつくっている建設業にとっても大切な活動とっておりますので、今後とも陰ながら、微力ながらではありますが応援しています。

最後になりますが、部長をはじめ青年部の皆様様の発展とご活躍を心より期待しまして卒業の言葉にさせていただきます。ありがとうございます。



卒業の言葉



榑ナカムラ

栗本 司

この度、山形県建設業協会鶴岡支部青年部を卒業することになり、入会していた7年間の振り返ることが出来ました。平成31年に入会し当初は交流が余りない方々ばかりで戸惑いながら活動していたことを思い出されます。しかし諸先輩方に指導を頂き楽しく活動に参加させて頂きました。令和元年には山形県沖地震、令和2年には新型コロナウイルス感染症が発生し様々な規制があり事業もなかなか難しいこともありましたが、そして西目地区の土砂災害や酒田飽海郡に於ける豪雨災害など私が入会している間にも様々な事象が発生しました。そんな中でも高校生徒の現場見学会・意見交換会等でこの業界に少しでも興味を持つていただけるように微力ながら参加させて頂いていただいたりボランティア活動・河川愛護活動に参加させて頂いたり有意義な時間を過ごすことが出来ました、そして会員の皆様と親睦を図れたことは人生の中で大切な宝物となりました。

そして、青年部で培ったことをこれからの仕事や生活を通して建設業会を微力ながら盛り上げて行ければと思います。これからも山形県建設業協会鶴岡支部のご活躍とご発展を心よりお祈りしながら卒業の言葉とさせていただきます。7年間大変お世話になりました。



青年部卒業にあたり



榑佐藤組

小野寺 清昭

令和5年度に鶴岡市青年部へ入部させて頂き、2年間大変お世話になりました。

青年部の活動を通して、地域へのボランティアや地元小学生との交流、高校生の就業促進事業、現場見学会他様々な活動に参加させて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。また、同業で活躍されている方々と共に活動、交流させて頂く事も、自分にとって大きなプラスとなりました。

建設業の担い手が年々減っていく中で、私の日々の業務においても人手不足をヒシヒシと感じております。そのような状況において青年部員として地元の未来を担う学生へ建設業への興味を持ってもらえるような活動に携われた事は大きな経験となりました。卒業はしましたが、これからも建設業の重要性、楽しさ、やりがい若くは世代へ伝え、非常に微力ではありますが建設業へ貢献できればと思っています。

今後も鶴岡市青年部の活動一つ一つが建設業の発展への道筋となりますよう、また青年部自体の益々の御発展、部員皆様様の御活躍を心より期待して卒業の御挨拶とさせていただきます。短い間ではありましたが有難うございました。



令和7年度

入部の言葉

青年部入部の言葉


 榑和泉工務店
和泉 修人

今年度より、山形県建設業協会鶴岡支部青年部に入部させていただきました株式会社和泉工務店の和泉修人と申します。

青年部に入部するにあたり、不安な気持ちがあった一方で、過去の広報誌を拝見させていただいたり、先日参加させていただいた定時総会での活動報告や諸先輩方からのお話を伺いこれから青年部の一員として、活動に参加できることに期待を膨らませているところです。

青年部の活動の中に高校生建設工事現場見学会、就業促進事業、河川愛護活動、ボランティアなどがあり、どれも素晴らしい活動を行っていると感じました。これらの活動を通してこれからの地元建設業を盛り上げていくために、若い人たちに建設業の魅力を発信していければと思います。

私自身 先輩方に比べると建設業に携わった年数はまだまだ浅く、また同業他社の方々と交流する機会も少なかったもので、これから青年部の活動を通して、親睦を深めていけたらと思います。

最後になりますが、皆様方からのご指導いただきながら、自分自身成長していけるように頑張っていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

青年部入部の言葉



(株)王祇建設

金内一平

今年度より山形県建設業協会鶴岡支部青年部に入部させていただくこととなりました、株式会社王祇建設の金内一平と申します。宜しくお願い致します。

青年部活動に關しましては、入部前は右も左もわからず不安もありましたが、先日開催されました定時総会の場において、諸先輩方から温かく迎え入れていただき、活動内容等についても丁寧に教えていただいたことで、不安は払拭され、今後青年部の一員として活動していくことに誇りと喜びを感じました。

私は建設業に従事して5年ほどであり、まだまだ経験不足ではございますが、青年部の活動を通して先輩部員の皆様と親睦を深めさせていただくとともに、自分自身の成長にも繋がるよう、積極的に参加させていただければと思います。

委員会に關しましては、地域貢獻委員會への配属となりました。菅委員長より、河川愛護活動や地元小学生を対象とした自然体験活動、鶴岡公園でのボランティア等、委員会活動の内容についてお聞きし、地域に資する素晴らしい活動であると感銘を受けるとともに、微力ながら自分自身もその一端を担って活動していけることをとても嬉しく、楽しみに感じております。

まだまだ未熟な私ではございますが、青年部の一員として、地域のため、建設業界のために尽力して参る所存でございます。何卒、御指導御鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

青年部入部の言葉



(株)佐藤組

佐藤 多恵

2009年4月に地元である鶴岡へ戻り、佐藤組に入社してから16年目を迎えました。これまで本社で事務業務に従事してきましたが、現場経験や業界の皆さまとの交流が十分に持てず、後継者としての自分にどこか物足りなさを感じていました。

このたび建設業協会青年部に入部できることとなり、新たな一歩を踏み出せることを大変ありがたく、心強く感じております。現場での実務経験や専門知識についてはまだまだ学ぶべきことばかりですが、素直な心で多くのことを吸収し、貪欲に学び、次代を支える力へと変えていきたいと考えています。

また、青年部での経験を通じて人とのつながりを深め、地域社会への貢献にも積極的になり取り組んでまいります。地域の未来を担う一員として、ボランティア活動や地域行事にも力を注ぎ、より豊かなまちづくりに貢献していきたいと考えています。

小さな一歩ではありますが、志を高く持ち、会社、業界、そして地域の未来に向けて力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

青年部入部の言葉



(株)鈴木工務店

熊谷智

今年度より山形県建設業協会鶴岡支部青年部に前任の阿部和弥から引継ぎ、入部させて頂くことになりました株式会社鈴木工務店の熊谷智と申します。毎年この青年部から版

青年部入部の言葉



(株)ナカムラ

日向 信也

を目にし、とても素晴らしい活動をされてお
り、その一員になることがとても光栄で
す。私は祖父・父の影響で建設業に興味を持
ち、高校卒業を機に一度鶴岡を離れて20代後
半にUターンして参りました。この青年部の
活動を通して、ものづくりや建設業の素晴ら
しさ・魅力を発信し、次世代に少しでも興味
をもってもらい未来の鶴岡市建設業の担い手
になる方へのきっかけになるお手伝いができ
ればと思います。また建設業に携わり23年目
になりますが、他社同業種の方々と交流する
機会がほとんどなかったので、比較的年齢が
近い皆さんと交流ができるのが楽しみです。
情報交換や色々なお話を皆さんとできたらと
思っております。そして総務交流委員会の一
員として諸先輩方の力になれるように尽力し
て参る所存です。今後色々な活動に積極的に
参加し、いち早く名前と顔を覚えてもらえる
ように頑張っていきたいと思います。

最後に一つ一つの出会いを大切に、佐藤
義将部長を先頭にこの故郷『鶴岡市』を支え
る建設業を通して、微力ながら地域貢献に少
しでもお力になればと思います。

参加し、いち早く名前と顔を覚えてもらえるように頑張っていきたいと思います。



榎ナカムラ
日向 信也

今年度より建設業協会鶴岡支部青年部へ入部をさせていただくことになりました、株式会社ナカムラの日向信也と申します。宜しくお願ひ致します。

私は高校卒業以来25年ぐらいになります
が、建築塗装業として働いてきました。

今まで現場以外では他社の皆様と交流することも少なかったのですが、青年部へ入部をして他社の方々とこれからの青年部の活動を通して交流する機会も増えるかと思えますの

建設業青年部に入部にあたって



(株)山本組

山本 学

お世話になります。株式会社山本組の山本
学と申します。この度は建設業青年部に入部
させていただくことになりました。

鶴岡 庄内で建設業をしていくにあたって、同業者とのつながりや建設業に対する意識の向上が自分にとって必要であると感じておりました。そんな中で建設業青年部からのお誘いを受けまして、良い機会ととらえて入部させていただきました。

これから活動する意気込みといたしましては、同じ地域で建設業をする同年代の方々と関わり信頼関係を築けるよう積極的に活動に参加するとともに、様々な知見を得ることで、結果として自己の成長につなげて仕事に還元できるようにと考えております。また、ボランティア活動や地域活動に対して積極的に参加し、社会貢献していきたいと思っております。

まだまだ若輩者ではございますが、建設業青年部の一員として活動頑張ってまいりますので、これからご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。





現場紹介

鶴岡市朝日庁舎・消防署朝日分署
改築工事



菅原建設・伊藤組・
十和建设
特定建設工事共同企業体

菅原建設(株)
現場代理人
矢口 泰雄

本工事は、旧朝日庁舎と旧消防署朝日分署の築後約50年経過に伴う老朽化・耐震性不足による鶴岡市発注の改築工事です。工事の概要として、木造の庁舎と鉄筋コンクリート造の消防分署を合築した2階建てとなっており、延床面積は2,038.65㎡、工期は令和5年11月14日から令和7年3月10日までで、約1年半の長い工期でした。朝日地域の厳しい自然条件や週休2日確保工事の対象現場となっており、その点を考慮し工事を進捗しました。

中でも苦労した事は、木造庁舎の屋根工事です。柱・梁などの躯体部分の大半は集成材を使用した構造になっていますが、屋根下の地の母屋・垂木については鉄骨材の仕様にて構成されているため、木材と鉄骨をどのように精度良く、反映させるかがとても難しかったです。集成材の建て方時に実測値を図面化し、屋根勾配や木材と鉄骨の角度を細かく測定し施工の管理を



行いました。少しでもズレが生じると、勾配や仕口・鉄骨部材などが合わなくなってしまうため、非常に精度が要求される作業でした。施工前には、鉄骨材の重量も大きいため、荷重・クレーン選定・配置などの計画を十分行い、予定通りに施工することが出来ました。施工方法と現場管理については、とても貴重な経験をさせていただきました。

最後に、今回の建物は木質バイオマスなど最新式のエネルギー設備を有し、鶴岡市内の公共施設では初となるZEB-Ready（ゼブレディ）庁舎で脱炭素社会・建築物省エネ法に合致した建物でも注目されており、このような大事な役割を担っていく建設工事に携わることが出来大変嬉しく思っております。

又、鶴岡市の担当者の皆様をはじめ、設計JVの皆様、現場のJV構成員の皆様には多大なるご協力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

